

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸市看護大学
設置者名	公立大学法人神戸市看護大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
看護学部	看護学科	夜・通信	0	0	48	48	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kobe-ccn.ac.jp/archives/pdf/department/work_experience.pdf に、「実務経験のある教員等の授業一覧表」を掲載 添付資料1「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」参照
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸市看護大学
設置者名	公立大学法人神戸市看護大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/info/officer/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	地方公共団体顧問（総合政策担当）・国立大学名誉教授	2018年4月1日～2020年3月31日	理事会の構成員として、経営及び教育・研究にかかる重要事項を議決・決定
非常勤	前公立大学理事長兼学長	2018年4月1日～2020年3月31日	理事会の構成員として、経営及び教育・研究にかかる重要事項を議決・決定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸市看護大学
設置者名	公立大学法人神戸市看護大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の決定手順は、文科省より求められている「授業科目において授業計画(シラバス)が作成され、かつその内容として科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されていること」に沿って、各科目担当者が前年度2月までに日程調整などを行い、看護師国家試験出題基準を参考に授業計画(シラバス)を作成する。新カリキュラム科目、新規科目、科目責任者が変更になる場合、教務委員会で審議を経た後、教育研究審議会で決定する。公表は3月に公開する。</p> <p>授業計画(シラバス)の具体的な項目は、講義名、基準単位数、時間、英語表記、開講年次(○年次前期か後期か)、担当教員名、選択必修(選択か必修か)、科目分類、授業形態(講義、実習、演習)、授業の目的・到達目標、授業の目的およびねらい、授業のキーワード、授業内容及び計画、事前・事後学習、成績評価の方法と基準、教員から学生へのメッセージを明記し、学生が閲覧できるようにしている。授業計画(シラバス)の作成時ポイントは、科目履修による到達目標を追加し、学生が主語となるように、「～することができる」となるような文言で記載した。「事前・事後学習」として、準備学習の内容を明示するように、予習・復習の内容や目安となる量などを記載する。なお、実務経験のある教員が授業を担当している場合、「授業の目的・到達目標」の中に明記している。</p> <p>(講義の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 授業形態に、「講義」を明記 * 到達目標は、「授業の目的・到達目標」に明記 * 授業内容、年間授業計画は、「授業内容及び計画」の中で、各回の内容を明記 * テキスト、参考文献、事前・事後学習の項目を設け、具体的に明示。 * その他、教員から伝えたいことについては、「教員から学生へのメッセージ」に明示。 * 成績評価の方法と基準については、「成績評価の方法と基準」の中で、レポート○%、グループワークへの貢献度、発表○%等と明記 <p>(実習の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 授業の方法は、講義名のタイトルへ「実習」及び、授業形態に「実習」を明記 * 到達目標は、「授業の目的・到達目標」に明記 * 授業の内容、年間授業の計画については、「授業内容及び計画」で実習目標、実習期間、実習のすすめかた、実習施設名を明記 * 成績評価の方法と基準については、「成績評価の方法と基準」の中で、実習の出席状況、実習態度、実習の準備状況(自己学習、看護技術)、実習内容、実習記録などにより判定することを明記 * その他、授業時間以外に必要な内容は「教員からの学生へのメッセージ」として明記。また、実習については、学生に各領域の実習要項を配布し、要項の中で具体的に、実習目的、目標、実習施設名、方法(スケジュール、実習時間、進め方、記録・レポートについて、実習評価方法、必要な出席日数、注意事項等)を明記している。

授業計画の公表方法	シラバス検索は、 https://www.kobe-ccn.ac.jp/current_student/ (https://cp.kobe-ccn.ac.jp/public/web/syllabus/websyllabusbuskensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx) 添付資料2「授業計画」
-----------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

講義の場合、レポート〇%、グループワークへの貢献度、発表〇%等と授業計画(シラバス)に明記している。

実習の場合、実習の出席状況、実習態度、実習の準備状況(自己学習、看護技術)、実習内容、実習記録などにより判定することを授業計画(シラバス)で公表している。

授業科目の学修成果については、授業態度、試験やレポート、卒業論文など、シラバスの中の「成績評価の方法と基準」で明示し、単位認定、卒業認定については、教務委員会を経て教授会で、ディプロマポリシーに基づき厳格かつ適正に審議し、認定している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA(Grade Point Average)制度を用いた成績評価を行っている。履修登録した各科目の5段階評価の成績(S・A・B・C・D)を、4から0までの点数(GP:Grade Point)に置き換えて(下表参照)単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点(つまり1単位あたりのGPの平均値)とする。

また、履修した授業科目の単位の修得はその科目の試験結果等によって判定され、合格した場合にその授業科目の所定の単位を与える。

成績評価基準

判定		合格				不合格
評価	評語	S	A	B	C	D
	得点	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	60点未満
	GP	4点	3点	2点	1点	0点

$$GPA = \frac{\text{(当該科目のGP} \times \text{履修登録した科目の単位数)の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数の合計 (D (不合格) 評価科目も含む)}}$$

* S・A・B・Cが合格となり、単位取得ができる。

履修科目の単位修得状況および、各学期・累積(入学後の累計)の2種類のGPAを「成績通知書」により通知する。

通知されたGPAにより、学期毎および在学中の成績評価を確認し、学習成果の指標として活用している。

ただし以下の科目はGPA計算式に含まない。

(1) 他大学等で単位修得し、本学が「認定」とした科目(学園都市単位互換講座の他大学開講科目を履修し成績評価の結果「認定」となった科目も含む)

(2) 履修登録取消期間に、履修登録を取り消した科目

添付資料3「客観的な指標に基づく成績分布状況を示す資料」参照。

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/curriculum/evaluation/に、学修の成果に係る評価基準に公表。 また、学生便覧に掲載。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー以下の①から⑧について学生便覧、大学ホームページ、大学案内に明示している。 <ul style="list-style-type: none"> ①人間を全体として捉えることができ、人間の存在や経験の意味を洞察することができる。 ②生命の尊厳と人権を尊重し、常によりよい行動を取ろうとする倫理的態度を身につけている。 ③他者と関わる力を有し、能動的に他者との関係を築くことができる。 ④分析的かつ統合的な思考により、看護を受ける人に個別性のある看護を実践することができる。 ⑤リーダーシップの基礎を理解し、保健医療福祉従事者など多職種と連携・協働する積極性と協調性を身につけている。 ⑥地域住民の健康問題に関するニーズを捉え、主体的に地域活動に参加する姿勢を身につけている。 ⑦異なる文化や様々な価値観を理解し尊重する態度を身につけている。 ⑧社会の動向を把握し、ケアの質の向上とよりよい看護提供システムを探究しようとする姿勢を身につけている。 ・卒業要件単位数の具体的な内容は、128 単位以上であること、 H24 年度以後入学生・H26 年度以後編入学生の場合 看護学の基盤となる科目Ⅰ；25 単位以上、看護学の基盤となる科目Ⅱ；28 単位以上（うち必修 22 単位）、看護学科目；68 単位以上（うち必修 64 単位）、総合科目；7 単位以上（うち必修 7 単位） 2019 年度以後の入学生の場合 看護学の基盤となる科目Ⅰ；25 単位以上、看護学の基盤となる科目Ⅱ；28 単位以上（うち必修 22 単位）、看護学科目；69 単位以上（うち必修 65 単位）、総合科目；6 単位以上（うち必修 6 単位） 4 年間に履修すべき単位数は、必修科目と選択科目を合わせて 128 単位以上と便覧に明示している。 ディプロマポリシー及び卒業要件単位数に基づき、教授会で卒業認定を実施している。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p><ディプロマポリシー> https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/outline/philosophy/と学生便覧に公表 卒業要件単位数は、学生便覧と https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/curriculum/に公表</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸市看護大学
設置者名	公立大学法人神戸市看護大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

※平成31年4月1日に独立行政法人化したため、財務諸表等なし

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/educational_info/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 看護学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：〈教育理念〉 https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/info/philosophy/ 〈教育情報の公開〉 https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/educational_info/ 学生便覧、大学案内)</p>
<p>(概要) 地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職の育成のために、広い視野と豊かな教養に基づいて、人間を全体として捉える力を育てる。そのために、看護専門職としての自覚と責任に基づき、多様な対象者の個別性に対応できる実践能力を開発することを目標としている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法；ディプロマポリシーは、学生便覧と https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/outline/philosophy/ に公表 卒業要件単位数は https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/curriculum/ と学生便覧 に公表)</p>
<p>(概要) ・ディプロマポリシー以下の①から⑧について学生便覧、大学ホームページ、大学案内に明示している。 ①人間を全体として捉えることができ、人間の存在や経験の意味を洞察することができる。 ②生命の尊厳と人権を尊重し、常によりよい行動を取ろうとする倫理的態度を身につけている。 ③他者と関わる力を有し、能動的に他者との関係を築くことができる。 ④分析的かつ統合的な思考により、看護を受ける人に個別性のある看護を実践することができる。 ⑤リーダーシップの基礎を理解し、保健医療福祉従事者など多職種と連携・協働する積極性と協調性を身につけている。 ⑥地域住民の健康問題に関するニーズを捉え、主体的に地域活動に参加する姿勢を身につけている。 ⑦異なる文化や様々な価値観を理解し尊重する態度を身につけている。 ⑧社会の動向を把握し、ケアの質の向上とよりよい看護提供システムを探究しようとする姿勢を身につけている。 ・卒業要件単位数の具体的な内容は、128 単位以上であること、 H24 年度以後入学生・H26 年度以後編入学生の場合 看護学の基盤となる科目Ⅰ；25 単位以上、看護学の基盤となる科目Ⅱ；28 単位以上（うち必修 22 単位）、看護学科目；68 単位以上（うち必修 64 単位）、総合科目；7 単位以上（うち必修 7 単位） 2019 年度以後の入学生の場合 看護学の基盤となる科目Ⅰ；25 単位以上、看護学の基盤となる科目Ⅱ；28 単位以上（うち必修 22 単位）、看護学科目；69 単位以上（うち必修 65 単位）、総合科目；6 単位以上（うち必修 6 単位） 4 年間に履修すべき単位数は、必修科目と選択科目を合わせて 128 単位以上と便覧に明示している。 ディプロマポリシー及び卒業要件単位数に基づき、教授会で卒業認定を実施している。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：〈カリキュラムポリシー〉 https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/outline/philosophy/ 大学案内、学生便覧）</p>
<p>（概要） 次の方針で教育を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①4年間の学士課程を通して、人間の営みに関係する文化、社会、自然、言語の科目、人間の健康生活に関する生体の基礎、健康と生活、健康の変調と医療の科目を履修することにより、看護学の基盤となる様々な学問領域における知識と教養を身につける。また、専門教育では、看護実践に必要な知識と基本的技術を身につける。 ②看護学科目にシミュレーション教育、実習指導者等による講義や事例を用いた授業を導入することを通して、看護の現象を多角的に捉え、思考の広がり育成すると共に、分析、統合する思考を育成する。 ③グループワークによる演習を含む科目や実習科目を履修することにより、他者と関わる力や協調性、倫理的態度、リーダーシップを養う。 ④看護統合科目・総合科目では、与えられた課題を十分に探究・考察し、その結果を的確かつ論理的に構成・発信する能力を育てる。 ⑤地域住民に模擬患者や生活体験の語り手等として協力していただく「コラボ教育」を導入することにより、地域住民の生活や健康問題に関するニーズを捉える力、主体的に地域活動に参加する姿勢を育てる。 ⑥複数の語学科目を配置し、国際的視野に立った医療や看護を学ぶことにより、異なった文化や価値観を理解する姿勢を育てる。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：〈アドミッションポリシー〉 https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/outline/philosophy/ 大学案内、学生便覧）</p>
<p>（概要） 次のような人を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①（看護への志向性）看護をはじめとして保健・医療・福祉分野に広く関心のある人 ②（人間を尊重する姿勢）他者の尊厳と権利を重んじる姿勢を備えた人 ③（人と関わる力）他者に関心を持ち、主体的に関わろうとする意欲を備えた人 ④（柔軟な発想と行動力）柔軟な発想をもって新たな知識を探求し、問題を解決する意欲と行動力を備えた人 ⑤（基礎学力）看護学を学ぶために必要な基礎学力を備えた人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法： 教員組織および教員情報（https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/faculty/）</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
看護学部	—	16人	14人	6人	24人	人	60人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		199人					199人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：学部教員紹介の https://www.kobe-ccn.ac.jp/department/faculty/ から、個々の教員をクリックする。					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
臨地実習で問題を生じやすい生活体験が乏しい学生や支援が必要な学生に対する教員の教育能力の向上を図ることを目的に、年数回研修を行う。新任教員の教育能力を高める研修、学部教育における臨地実習能力を高める研修、学部・大学院の教育方法に関する能力を高める研修ができるように、教務委員会等で企画し、総務・評価委員会で年間計画を立てる。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
看護学部	95人	95人	100%	400人	397人	99.3%	10人	6人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	95人	95人	100%	400人	397人	99.3%	10人	6人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
看護学部	101人 (100%)	6人 (5.9 %)	93人 (92.1 %)	2人 (2 %)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	101人 (100%)	6人 (5.9%)	93人 (92.1%)	2人 (2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 神戸市立医療センター、神戸大学医学部附属部病院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
看護学部	95人 (100%)	87人 (91.6%)	4人 (4.2%)	4人 (4.2%)	0人 (0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	95人 (100%)	87人 (91.6%)	4人 (4.2%)	4人 (4.2%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業計画（シラバス）の決定手順は、文科省より求められている「授業科目において授業計画（シラバス）が作成され、かつその内容として科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されていること」に沿って、各科目担当者が前年度2月までに日程調整などを行い、看護師国家試験出題基準を参考に授業計画（シラバス）を作成する。新カリキュラム科目、新規科目、科目責任者が変更になる場合、教務委員会で審議を経た後、教育研究審議会で決定する。公表は3月に公開する。

授業計画（シラバス）の具体的な項目は、講義名、基準単位数、時間、英語表記、開講年次（○年次前期か後期か）、担当教員名、選択必修（選択か必修か）、科目分類、授業形態（講義、実習、演習）、授業の目的・到達目標、授業の目的およびねらい、授業のキーワード、授業内容及び計画、事前・事後学習、成績評価の方法と基準、教員から学生へのメッセージを明記し、学生が閲覧できるようにしている。授業計画（シラバス）の作成時点ポイントは、科目履修による到達目標を追加し、学生が主語となるように、「～することができる」となるような文言で記載した。「事前・事後学習」として、準備学習の内容を明示するように、予習・復習の内容や目安となる量などを記載する。なお、実務経験のある教員が授業を担当している場合、「授業の目的・到達目標」の中に明記している。

(講義の場合)

- *授業形態に、「講義」を明記。到達目標は、「授業の目的・到達目標」に明記。
- *授業内容、年間授業計画は、「授業内容及び計画」の中で、各回の内容を明記
- *テキスト、参考文献、事前・事後学習の項目を設け、具体的に明示。
- *その他、教員から伝えたいことについては、「教員から学生へのメッセージ」に明示
- *成績評価の方法と基準については、「成績評価の方法と基準」の中で、レポート○%、グループワークへの貢献度、発表○%等と明記

(実習の場合)

- *授業の方法については、講義名のタイトルへ「実習」及び、授業形態に「実習」を明記
- *到達目標は、「授業の目的・到達目標」に明記
- *授業の内容、年間授業の計画については、「授業内容及び計画」で実習目標、実習期間、実習のすすめかた、実習施設名を明記
- *成績評価の方法と基準については、「成績評価の方法と基準」の中で、実習の出席状況、実習態度、実習の準備状況（自己学習、看護技術）、実習内容、実習記録などにより判定することを明記
- *その他、授業時間以外に必要な内容は、「教員からの学生へのメッセージ」として明記。また、実習については、学生に各領域の実習要項を配布し、要項の中で具体的に、実習目的、目標、実習施設名、方法（スケジュール、実習時間、進め方、記録・レポートについて、実習評価方法、必要な出席日数、注意事項等）を明記している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

G P A (Grade Point Average) 制度を用いた成績評価を行っている。履修登録した各科目の5段階評価の成績(S・A・B・C・D)を、4から0までの点数(GP:Grade Point)に置き換えて(下表参照)単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点(つまり1単位あたりのGPの平均値)とする。これを用いることによって、学期毎の成績の変化や入学時からの累積の成績も把握できるようになり、より細やかな成績の把握が可能になる。また、履修した授業科目の単位の修得はその科目の試験結果等によって判定され、合格した場合にその授業科目の所定の単位が与えられる。

成績評価基準

判定		合格				不合格
評価	評語	S	A	B	C	D
	得点	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	60点未満
	GP	4点	3点	2点	1点	0点

$$G P A = \frac{\text{(当該科目のGP} \times \text{履修登録した科目の単位数)の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数の合計(D(不合格)評価科目も含む)}}$$

* S・A・B・Cが合格となり、単位取得ができる。

履修科目の単位修得状況および、各学期・累積(入学後の累計)の2種類のG P Aを「成績通知書」により通知する。

通知されたG P Aにより、学期毎および在学中の成績評価を確認し、学習成果の指標として活用している。

ただし以下の科目はG P A計算式に含まない。

- (1) 他大学等で単位修得し、本学が「認定」とした科目(学園都市単位互換講座の他大学開講科目を履修し成績評価の結果「認定」となった科目も含む)
- (2) 履修登録取消期間に、履修登録を取り消した科目

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	G P A制度の採用(任意記載事項)	履修単位の登録上限(任意記載事項)
看護学部	看護学科	128単位以上	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報(任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: 大学案内、学生便覧「学生生活のてびき」として掲載。

https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/facilities/ (施設関連機関)

<https://www.kobe-ccn.ac.jp/features/> (キャンパス紹介)

https://www.kobe-ccn.ac.jp/be_related/ (地域連携・教育センター)

<https://www.kobe-ccn.ac.jp/library/> (図書館)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
看護学部	看護学科	535,800 円	市内 282,000 円		
			市外 423,000 円		
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>【学修に関すること】 担任を中心に継続的な相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組んでいる。留年および休・退学の可能性がある学生については状況の把握と分析を行い、効果的かつ具体的な対策を講じる。</p> <p>【経済的支援】 神戸市民病院機構の奨学金制度及び各種の奨学金制度、授業料減免制度等を活用し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。</p> <p>【クラス担任制に関すること】 大学では学生が学習環境に適応し、スムーズな修学ができるよう、クラス担任制を設けて学生生活を支援する。1 クラス 20 名で、各クラスには 1 名の教員が担任として、学生の身近な相談役となっている。担任は、オフィスアワー（必ず研究室にいる時間）を設け、履修や修学上の問題に限らず、学生生活全般についての相談、また個別の悩みや相談を受け、解決に向けて援助する。</p> <p>【障がい学生支援に関すること】 病気の診断を受け付けているか各種の障害者手帳・療育手帳のいずれかを持っているか、申請可能としている。支援内容の実例としては、実習前の教員との事前学習、実習レポート期限の延長、実習施設関係者との調整、グループワークでの助言などである。合理的配慮の申請は、年 5 回受け付けて、修学等支援委員会で担任も参加して、支援内容を決定する。支援内容が決定すれば、担任を通じて、学生に伝えられる。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>【キャリア支援室】 進路への適性についてキャリア発達の観点から学生を支援するとともに、学生の就職に関する意向の把握、就職活動や就職先の相談等に応じるため、キャリア支援室を本部研究棟 2 階に設置している。経験豊かな担当者が、平日 9 時から 17 時まで（昼食 12 時～13 時を除く）常勤。病院・保健師関係の求人案内、進学に関する資料等をキャリア支援室に置いている。雑誌等の広告をキャリア支援室や学生会館に掲示し、学生が情報を収集できるようにしている。</p> <p>【クラス担任制度の活用】 クラス担任制度の活用し、就職や進学の相談を受ける。クラス担任とは別に 4 年次 4 月に進路相談担当教員を設けて、学生の就職や診断を受ける。</p> <p>【組織による就職指導ガイダンス】 学生委員会（進路・就職相談担当者を中心に）が進路・就職ガイダンスを年 1 回実施している。3 年次 2 月 3 月に市民病院群と連携し、病院説明会を実施、保健師課程の学生には、個別に、関連教員と卒業生が相談を受けている。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【学生の心身について】

保健室に、看護職員（看護師、保健師）を配置し、心身の悩み相談を受けている。
心理カウンセラーおよび精神科医が週1回来学し、相談を受けている。

【ハラスメントについて】

ハラスメントに関しては、ハラスメント防止委員会を設置し、ハラスメントに関する相談は、相談員に連絡が取れるように、大学ホームページ

(https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/stu_support/mental_health/)、および学生便覧に掲載。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.kobe-ccn.ac.jp/guide_college/educational_info/